



ユーザー様の声 **東京都 墨田区立小・中学校**

## “いつでも・誰でも・どこでも” 使えるICT整備へ。



### DATA

設置時期：2014年8月～2016年8月  
 導入製品：AOI-SPCM-WS  
 設置教室：墨田区内小・中学校(35校/736教室)  
 普通・特別教室

墨田区教育委員会事務局 庶務課  
 教育情報担当 渡部 昭氏

### Q:電子黒板 選定の経緯を教えてください。

これまで各校3～4台の電子黒板を導入していましたが、その都度教室に電子黒板を移動する必要があったり、準備や片づけで5分～10分かかることから、日常的には一部の教員が利用していた状態でした。日常的なICT活用を多くの教員が実践できるようにするためには、電子黒板をすぐに使える環境が必要であり、電子黒板を常設し、教室でスイッチを入れればすぐに使えることが第一条件と考えました。

### Q:墨田区の電子黒板導入のコンセプトとは？

ICT機器整備のコンセプトは、「いつでも・誰でも・どこでも」としています。日常的に、教員だけではなく児童・生徒も活用でき、校内のどこでも活用できる環境として整備したいと考えました。整備の目的は「ICTを活用し、授業改善を図ること」です。子どもたちの「分かった」を増やすこともその一つです。ICT活用を進めるためには授業技術の向上やコンテンツの充実なども必要ですが、機器としてはすぐに使えて、だれでも活用できることが重要と考え、このコンセプトに沿った整備を行いました。

### Q:どのように電子黒板に慣れていきましたか？

ICT機器導入の際に各学校で基本的な操作研修を実施しました。また、各校が行う校内研修のサポートも行いました。区全体としてもICTに関する様々な研修を実施しています。ICT活用を学校全体で取り組んでほしいとの思いから、普通教室だけでなく理科・音楽・図工・美術・技術科・家庭科室などの特別教室にも導入しました。

### Q:ICTが果たす役割について、どのようにお考えですか？

ICTはあくまでも道具です。ICTが導入されたからといってすぐに学力が向上したり、授業力が向上するわけではありません。しかし、ICTの活用でより分かりやすい授業になり、児童・生徒の学習意欲に火を灯すことができます。

さらに、急速に進展する情報化社会で児童・生徒に確かな情報活用能力を育むことも大きな課題です。次期の学習指導要領では、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」ということが強調され、アクティブ・ラーニングの視点に立った学習プロセスが取り入れられます。アクティブ・ラーニングにおいてICTの活用は不可欠です。これまでのICT活用は、できる先生がやればよかったという面もありました。しかし、これからはすべての先生がICTを活用した授業を展開することが求められます。教えるべきものはきちんと教えつつも、「暗記・再生型の授業」から「思考・発信型の授業」へ、「教師中心の授業」から「学習者中心の授業」へ転換していくことが重要です。その際、ICTは大きな役割を果たすと思います。